

- ①授業で使っていた「速読トレーニング」については春季休業中に、授業で扱わなかったものについて、すべて解いて終わらせておくこと。なお、学力テストの範囲とはしない。
- ②現・古・漢のそれぞれについての学習法を以下に記す。参考にして学習すること

【古文】

1 はじめに

古文は「本文にどのようなことが書いてあるか『正確に』理解できるようにする」ことが大切です。そのため基本的知識（古文における基本的知識とは「古典文法」＋「古文単語」です）をつけ、それを基に本文を読み解いていく力（読解力）をつけなければなりません。また、基本的知識をまず完璧にしてから読解に取り組むというわけではなく、どちらも同時に取り組んでいくものです（いくら基本的知識を完璧にしても時間が経つにつれ忘れてしまうため、読解をして足りないところに気づき、それを補うことを繰り返さないといけない）。それを踏まえた上で、以下に具体的に取り組んでほしいことを記します。ぜひ参考にしてください。（ ）内に書いてあるものは「必携古典文法」の掲載個所を表します。

2 基本的知識

（古典文法）

ここで身につけてほしい古典文法とは主に次のようなものです。ここに書いたもの以外にも重要事項（例えば助詞はかなり重要です）はありますが、まずは以下のものを身につけましょう。

- ①用言（P12-39）…文中に出てくる用言について活用の種類と活用形がわかるようにする。
- ②助動詞（P40-75）…各助動詞の文法的意味（訳し方も含めて）および接続を覚える。次に、それぞれの助動詞の中の文法的意味の見分け方（例：「ぬ」が完了なのか強意なのか並列なのか）を覚え、できるようにする。
- ③識別（P142-151）…識別対象の語について、識別の仕方を身につける。どの語で識別が必要になってくるのか、それぞれの語はどのような品詞の可能性があるのか、どのようにして見分けるのか、の3点が重要。
- ④敬語（P114-133）…敬語動詞について、敬語の種類と訳し方を覚える。二つ以上の意味用をもつ語（P117）は特に注意。次に敬意の方向を理解できるようにする。
- ⑤その他 …P152-155 にチェック事項が載っている。

上記について、しっかり理解すること。不安箇所を学習したうえで理解度をチェックするには古典文法ノートを利用するとよい。

（古文単語）

授業で取り組んでいる単語帳に取り組むこと。何度も繰り返し、定着させること。現代語訳にとどまらず、語義（単語帳で、各語の下に書いてあること）を理解すると応用が利くし、様々な知識をつなげることができるのでさらによい。またコラム欄には古典常識が掲載されており、読解に役立つので、そちらについてもあわせて読むとよい。

3 読解

(読解とは)

上記の基本的知識があれば、ある程度、古典学習の基本である品詞分解と文の訳出はできるようになるでしょう。ただ、文法事項を覚えればすぐに訳出ができるわけではないし、さらに訳出できれば古文に書いてあることを全て理解できるわけではありません。身につけた知識を武器にして、多くの文章にあたることによって、徐々に古文が読めるようになってきます。その際に重要な点が以下のことです。

ア 主語の把握 …これまでの授業でやった通り、古文では主語の省略が多くあります。それぞれの文章についての主語を把握していくことが大切です。その際、助詞や敬語を手掛かりにしながら最終的には文脈によって主語を判別していくことになります。

イ 古典常識の理解…古文の世界における常識を理解しておいたほうが読解しやすい場面は多々あります。それらを身につけることも重要です。

(学習方法)

基本的知識を身につけたら、あとは本文読解をする経験を積むことです。自分の力で本文にあたり、わからなかったところを理解する、この繰り返しです。これは経験を積めば積むほどできるようになるので、多くの文章にあたきましょう。以下の学習方法を参考にしてください。

- ・錬成古文を丁寧に解く。まずは時間を測って解き、その後時間無制限で解く。その後、解答を見て、自分が理解できなかった部分や訳せなかった文の理解を進める。文法事項や単語でわからないものがあったら上記の基本的知識の項目を参考にして適宜復習する。トレーニングノートにも取り組む。
- ・「古典速読トレーニング」を読み進める。多くの文章にあたるための教材なので、春休み中にすべて終わらせておくこと。
- ・余裕がある者は自分のレベルにあった市販の問題集（記述試験用）を一冊解いてみるのもよいだろう。ただし、あれこれ手を出すのはダメ。
- ・音読は語学の学習において非常に効果的である。「たかが音読」と思わず、口に出して読もう。

以上、古文の基本的な学習法です。古文の力は一朝一夕で身につくものではないので、文型理型に関わらず粘り強く取り組もう。疑問点やわからないことは積極的に質問をしてください。

【漢文】

① 課題について

錬成漢文を、丁寧に説きましょう。答えの丸写しは無意味かつ、時間の無駄です。

問題を解き、答え合わせがすんだら、解説書を見て文の構成を確認しましょう。確認するのは、主語・述語の関係や、句形、重要語等です。特に、漢文は、主語の省略が多いため、問題を解く際に気を付ける必要があります。それを自分ができていたのかを確認します。指示語の指す内容が理解できていたかも、あわせて確認します。

また、漢文の読解のためには、基本の文章構成だけでなく、句形を理解していること、重要語を覚えていることが肝要です。各章で重要句形や重要語句が紹介されています。トレーニングノートに確認欄がありますので、しっかりと確認しましょう。

きちんと学習したうえで、余力があるならば、市販の問題集に取り組んでもよいでしょう。ただし、今までそういう習慣がないのに、いきなり高難易度のものに取り組んだり、やたらと分厚いものを選んだりすることはおすすめしません。心が折れる可能性が高まります。口コミに惑わされず、自分の目で見て選びましょう。

② 漢文の学習全般について

繰り返しになりますが漢文で重要な学習事項は句形・重要語・文構造の理解です。とにかくそれらを繰り返し解き、身につけることに努めてください。また、受験のためには、白文や訓読文（漢文に訓点が付いているもの）で勉強することが必要です。できれば、白文の状態でかなりの部分がわかるくらいが望ましいです。問題を解くために、毎回書き下し文に直さないと理解できないようでは、実際の試験では時間が足りません。また、問題となる箇所は白文になっていることがほとんどです。漢文特有の語の配列に慣れており、句形や、重要語を覚えていて、それを活用できる状態でなければ解けません。

したがって、問題集に取り組むとき、あるいは、授業で予習をするとき等に、書き下し文だけを見て勉強しても、受験時に必要な力はほとんど身に付きません。漢文の参考書（パンダ）をそばに置きつつ、書き下し文のみに頼らない勉強をしましょう。

③ さらにやった方がよいこと

- ・音読……問題集、参考書に限らず、音読することは効果的です。漢文特有の言い回しに慣れます。
- ・暗唱……参考書についている例文の暗唱です。問題を解く際は、文を読むわけなので、
例文が頭に入っている方が、応用が利きます。
- ・速読……試験では、正確に速く読むことが求められます。皆さんは速読のワークを持っているので、時間の制限を設けて取り組みましょう。解説で、句形や重要語等の確認をすることも忘れずに。
- ・白文……白文で読むことができれば、最終的に早く解けるようになります。句形や、重要語が身につけているかの確認もできます。

【現代文】

◎現代文の力をつけるために

(速く読むこと)

日頃の現代文の授業では、細部に目をやり、構成など全体も意識して、正確に読むことをやっている。しかし、入試では時間内に、正確に読むことが求められる。ゆっくり解いていいのであれば、現代文の点数はかなり変わる。つまり現代文の試験とは、時間内にどれだけ正確に読めたか、の試験であり、そのため、時間を意識ない演習には意味がない。現代文(国語)の演習をする時には、必ず時間を計って解くこと。途中で邪魔されないようにスマホなども遠ざける。今の時期、時間内に解けずに解答を止める必要はないが、自分の読解のスピードが十分かどうかは常に意識をすること。現代文が速く読めると、古文や漢文に時間を回せる。時間を意識した質の高い演習が国語の力になる。

(正確に読むこと)

日頃授業でやっているような正確に読むことの訓練も必要。それぞれの単語、文、段落の意味を丁寧に理解し、全体の構成をとらえることができれば、自然と読解のスピードは上がり、解答の正確性は増す。様々な進路希望の生徒がいるため、学年として全体に強制はしていないが、要約と論理構成図を作ることが役に立つ。時間を計って問題を解いた後、全体の構成をとらえ、キーワード、キーセンテンスを意識して要約を書き上げること、それぞれの段落の役割を意識して、論理構成図を作り、全体を理解することをやると、正確に読む力が身につく。少なくとも国公立を志望する文型の生徒は、二次に要約や要約のような設問が用意されることも多い。文型国公立を志望する生徒は、要約は必ずやる。

(語彙について)

35回生全体として語彙力の無さを感じる。単語が分からなければ、文章は分からない。「現代文単語」に載っている単語については確実に意味を理解しておきたい。演習中に分からない語句があれば、「現代文単語」の索引を開き、載っている語句であれば、丁寧に確認をする必要がある。

◎論読(演習)の取り組み方

- ・目標時間が設定されているため、その時間を意識して、必ず時間を計って解く。
(要約をやる場合は要約のために+10分程度時間をとる。)
- ・解答、解説を丁寧に読み込む。
- ・論理構成図を作る。
- ・意味のつかめなかった語句を、「現代文単語」や辞書を用いて確認。

◎課題+α

- ・記述問題に取り組みたい場合は、書店で自分の力に合った問題集を購入して取り組む。何を購入して良いか分からなければ、学校の先生に聞く。
- ・取り組み方は、論読と同様。

◎読書のすすめ

- ・本を読もう。評論文の読解における背景知識を得ることや興味のある学問分野の深化、良い文章のストックを自分の中に作るなど、読書をすることによるメリットは非常に多いです。時間がある今の時期にこそ読書の時間をつくるとよいでしょう。